

## 活 動 記 録 書

開催日： 令和元年 6月 6日(木) 晴	開催テーマ： 妙蓮寺から菊名池や白幡池を巡る
開催場所： 妙蓮寺・篠原・岸根・六角橋	記入者： 田野実 裕之
参加人数：	
会 員	男 23名 女 7名 計 30名
ビジター	男 1名 女 0名 計 1名
合 計	31名
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：	
<p>コース： 東急東横線 妙蓮寺駅（集合）→妙蓮寺→菊名池弁財天→菊名池→慈雲寺(法話拝聴) →白幡身代り地蔵尊→白幡池→県知事公舎跡→二つ池→県立武道館（昼食） →岸根公園→農業振興地域→塩嘗地蔵→神大寺跡→宝秀寺（解散）</p> <p>妙蓮寺駅を降りると、すぐそこに妙蓮寺がある。それもそのはずで、妙蓮寺が提供した境内の一角を東横線が通り、その代わりとして駅が設けられたとのこと。横浜線の引込線敷設に際し、仲木戸にあった妙仙寺とこの地にあった蓮光寺（いずれも日蓮宗池上本門寺の末）が一体化してこの寺ができ、妙蓮寺と号したという。いかにも日蓮宗といった寺号である。</p> <p>ここをスタートとして、菊名池に向かう。その途中、山車を転用した社殿があり、剣と宝玉をもつ二臂の弁財天が祀られている。社殿の彫刻が見事である。菊名池は 灌漑用水として使われた巨大な湧水池だったが、今はその一部が残り、絶滅危惧種のコウホネが小さな黄花を咲かせている。</p> <p>次いで、慈雲寺を訪れ、住持（尼僧）の法話を聞く。この寺も日蓮宗で池上本門寺末。「大事なものは体」との言葉で始まり、周りの人、故人、祖師らに教えを請うことで、苦境も乗り越えることができ、物事が成就し信仰心が深まると説く。その後、内陣に上げていただき、一塔両尊等と祖師像を拝観する。法話での穏やかな様子とうって変わり、読経の声と太鼓の音の力強さに驚かされる。</p> <p>白幡池へ向かう途中に、身代りになることで 幼い兄弟を辻強盗から救ったという地蔵がある。白幡池にはスイレンが咲き乱れていた。篠原園地の高台には県知事公舎があったとのこと。昼食は岸根公園内の武道館でとる。横浜スタジアム建設のために、池の一部を埋立て、ここに移されたとのことである。ここに来る途中にもかつては二つ池という大きな池が対であったとか。かつての金沢は広大な内海があったが、この地域には広大な湧水池があちらこちらにあったようである。</p> <p>岸根公園は 皇紀 2600 年に計画されたものだが、戦時中は高射砲陣地となり、戦後は朝鮮戦争やベトナム戦争の後方基地となり、…という経緯をもつ公園である。公園を抜けると、農業振興地域がある。氷取沢の農業専用地区と同じようなもので、キャベツ生産が主とのこと。ここにも 塩嘗地蔵がおわす。大量の塩に囲まれて…。このあたりを神大寺という。かつて小田原北条氏の家臣が建立した神大寺があったが、焼失・移転し、地名だけが残ったとのこと。</p> <p>最後に訪れたのが浄土宗の宝秀寺。塀の瓦には葵の御紋が刻され、門前には「六角橋」という名の由来を記した碑がある。そこにはヤマトタケルがこの地の豪族の庵に泊まった時、六角の木の箸を贈ったことによるとある。意外さと驚きのなかでの解散となる。</p>	
参加者の状況・意見など：	
梅雨入り前とはいえ、日差しは厳しく、頻繁な水分補給を要した。それでも、日陰を選び、緑地や木陰も多く、心地よく探訪できたのではなかろうか。今回も無事完了でき、感謝。	
次回の予定：	
7月4日（木）10時 京急鶴見駅改札前 生麦事件の現場を巡る	